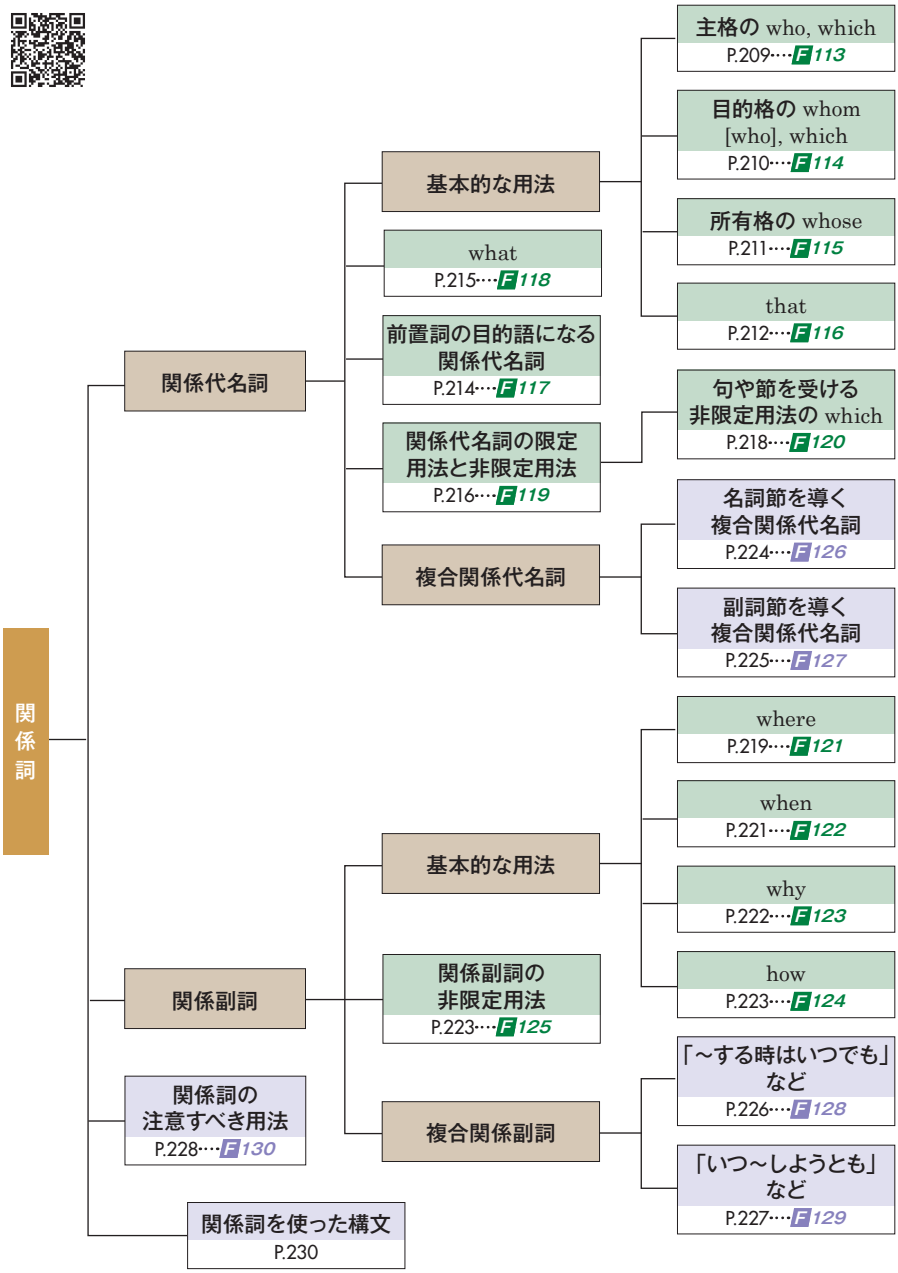
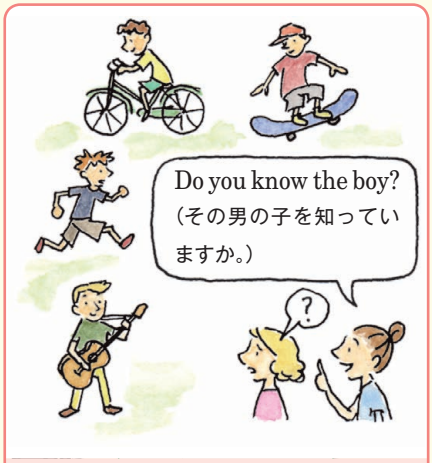
第10章 関係詞


関係詞
関係代名詞
基本的な用法
主格の who, which
P.209…F113
目的格の whom [who], which
P.210…F114
所有格の whose
P.211…F115
what
P.215…F118
前置詞の目的語になる関係代名詞
P.214…F117
関係代名詞の限定用法と非限定用法
P.216…F119
that
P.212…F116
複合関係代名詞
句や節を受ける非限定用法の which
P.218…F120
名詞節を導く複合関係代名詞
P.224…F126
副詞節を導く複合関係代名詞
P.225…F127
関係副詞
基本的な用法
where
P.219…F121
when
P.221…F122
why
P.222…F123
how
P.223…F124
関係副詞の非限定用法
P.223…F125
複合関係副詞
「～する時はいつでも」など
P.226…F128
「いつ～しようとも」など
P.227…F129
関係詞の注意すべき用法
P.228…F130
関係詞を使った構文
P.230

関係詞は直前の名詞を修飾する



男の子はたくさんいるので，誰のことかわからない。



「自転車に乗っている男の子」ということで特定できる。

Focus 113



左のイラストでは，男の子がたくさんいて，「その男の子」と言っても区別がつきにくいです。

そうですね。どの男の子なのかはっきりさせるために「自転車に乗っている男の子」のように，どの男の子なのかを具体的に示す必要があります。右のイラストがそうです。





英語では the boy **who** is riding a bike と，who を使って後ろから the boy を修飾するのですね。

そうです。日本語では「自転車に乗っている男の子」のように，動詞を含む修飾語句は名詞の前につきますが，英語は後ろから修飾します。その際，who は名詞とそれを修飾する節を「関係」付ける働きをし，「関係代名詞」と呼ばれます。また，関係代名詞を使って修飾される名詞（the boy）は「先行詞」と呼ばれます。



関係詞

関係詞は，直前の名詞(**先行詞**)と直後の節(**関係詞節**)をつなげる。関係詞節の中で代名詞の働きをするもの(**関係代名詞**)と副詞の働きをするもの(**関係副詞**)などがある。

Focus 113 関係代名詞：主格の who, which

1. I met a woman who spoke French well. 283
   人　S′ V′ O′
   私はフランス語を上手に話す女性に出会った。

2. She was reading a novel which was popular with teenagers. 284
   人以外　S′ V′ C′
   彼女は 10 代に人気がある小説を読んでいた。

関係代名詞

関係代名詞は，①先行詞が人であるかどうか，②後ろに続く節(関係詞節)の中でどのような働きをするか(主格・所有格・目的格)によって使い分けられる。

I met a woman **who** spoke French well.
先行詞　主格

先行詞	主　格	所有格	目的格
人	who	whose	whom / who
人以外(動物・物・事)	which	whose	which
人・人以外(すべて)	that	—	that

主語の働きをする関係代名詞

関係詞節の中で主語の働きをする関係詞を**主格の関係代名詞**と呼ぶ。先行詞が**人**のときは **who**，先行詞が**人以外**のときは **which** を用いる。**that** はどちらの場合も使える。

1. a woman を who 以下の関係詞節が修飾している。①先行詞は**人**であり，②後ろに続く節の中で**主語**の働きをしているので who が使われる。

I met a woman.
名詞
どんな女性？
She spoke French well.
代名詞



→ I met a woman **who** spoke French well.
名詞　関係代名詞

2. ①先行詞が**人以外**であり，②**主語**の働きをしているので which が使われる。
She was reading a novel. **It** was popular with teenagers.
→ She was reading a novel **which** was popular with teenagers.

注意 関係詞節中の動詞の形は，先行詞の人称・数に応じて形を変える。
This is **the bus** which **goes** to the university.（これが大学に行くバスです。）

Focus 114 関係代名詞：目的格の whom [who], which

1. The people (**whom** [**who**]) I met in Korea were nice. 285
人 ↑ O′ S′ V′
私が韓国で出会った人々は親切だった。

2. This is the book (**which**) he wrote. これが彼の書いた本です。 286
人以外 ↑ O′ S′ V′

目的語の働きをする関係代名詞

関係詞節の中で目的語の働きをする関係詞を**目的格の関係代名詞**と呼ぶ。先行詞が「人」のときは **whom** か **who**（口語では who のほうが多く用いられる），先行詞が「人以外」のときは **which** を用いる。**that** はどちらの場合も使える。目的格の関係代名詞は省略されることが多い。

Focus 113–115

1. The people が先行詞で，whom [who] I met in Korea がそれを修飾している。
The people were nice.
どんな人たち？ I met **them** in Korea.
O（代名詞）
→ The people (**whom** [**who**]) I met ☐ in Korea were nice.
関係代名詞

注意 関係詞節の中には代名詞の目的語は残らない。
× *The people whom [who] I met them in Korea were nice.*

2. 先行詞（the book）は人以外なので，関係代名詞として which が使われている。
1. と同様，which は wrote の目的語の働きをしている。
This is the book. He wrote **it**.
→ This is the book (**which**) he wrote ☐.

注意 目的格の関係詞節は，しばしば関係詞が省略されて S＋V（＋M）になる。名詞の直後に S＋V を見つけたら，それはその名詞を修飾する関係詞節だと考えるとよい。
The movie *I watched* with her yesterday was really exciting.
名詞 S′ V′
（昨日彼女と見た映画はとてもわくわくするものだった。）

Focus 115　関係代名詞：所有格の whose

1. I met [a woman] **whose sister** is a cartoonist. 287
   （a woman：人　S′　V′　C′）
   私は姉[妹]が漫画家の女性に出会った。

2. [The house] **whose roof** is red is my uncle's. 288
   （The house：人以外　S′　V′　C′）
   屋根が赤色の家はおじの家です。

所有を表す関係代名詞

所有格の関係代名詞は，先行詞が所有するものについて情報を加える場合に使われる。先行詞が人か人以外かにかかわらず **whose** を用い，〈**whose＋名詞**〉の形で使われる。

1. a woman（人）が先行詞で，whose sister is a cartoonist がそれを修飾している。

   I met [a woman].

   どんな女性？　**Her sister** is a cartoonist.
   （Her：代名詞）

   → I met [a woman] **whose sister** is a cartoonist.
   （whose：関係代名詞）

   〈whose＋名詞〉が関係詞節で主語以外の働きをすることもある。

   I met [a woman]. You know **her sister** well.

   → I met [a woman] **whose sister** you know well.
   （whose：O′　sister：S′　you know：V′）
   （そのお姉さんをあなたがよく知っている女性に会いました。）

2. The house（人以外）が先行詞で，whose roof is red がそれを修飾している。

   [The house] is my uncle's. **Its roof** is red.

   → [The house] **whose roof** is red is my uncle's.

参考　先行詞が人以外の場合，文語では of which を用いて次のように表すこともできる。
＝The house the roof **of which** is red is my uncle's.
口語では with を使った次の表現のほうが好まれる。
The house **with** a red roof is my uncle's.

Focus 116　関係代名詞 that

1. She was reading a novel **that** was popular with teenagers. 289
   （a novel：人以外　S′ V′ C′）
   彼女は 10 代に人気がある小説を読んでいた。

2. The people (**that**) I met in Korea were nice. 290
   （The people：人　O′ S′ V′）
   私が韓国で出会った人々は親切だった。

主語や目的語の働きをする関係代名詞 that

that は主格・目的格の両方の関係代名詞として用いられる。

1. 先行詞(a novel)は人以外で，主格の関係代名詞 that が用いられている。that は関係詞節の中で主語の働きをしている。that の代わりに which も可。
2. 先行詞(The people)は人で，目的格の関係代名詞 that が用いられている。that は関係詞節の中で目的語の働きをしている。that の代わりに who，whom も可。

参考　that はさまざまな先行詞をとるが，人が先行詞の場合は一般に who(m)が好まれる。また，物が先行詞の場合は which より that の方が好まれる。

Focus 116

注意　that には所有格の用法はない。
The house **whose roof** is red is my uncle's.
× *The house that roof is red is my uncle's.*

Plus　同格の that との違いに注意(⇒ p.319 **質問箱**)。

Plus α　that が好んで用いられる場合

(1) 先行詞に **the first**(1 番目の)，**the second**(2 番目の)，**the only**(唯一の)，**the same**(同じ)，**the＋最上級**(最も～な)などが付き，決まった 1 つのものを指す場合：
It's *the only* explanation **that** makes sense.（それは筋の通る唯一の説明です。）

(2) 先行詞に **all**, **every**, **any**, **no** などの「すべて」「まったく～ない」を表す修飾語が付く場合：
He has eaten *all* the apples (**that**) his mother bought yesterday.
（昨日母親が買ったすべてのリンゴを彼は食べてしまった。）

(3) **everything**, **anything**, **nothing** が先行詞の場合：
You can take *anything* (**that**) you want.
（欲しいものは何でも持って行っていいですよ。）

(4) 先行詞が「人」と「動物・物・事」の両方を含む場合：
Look at *the man and the dog* **that** are playing over there.
（向こうで遊んでいる男性と犬を見て。）

(5) 疑問詞 who が先行詞となる場合：Who who knows ... となると口調が悪いため。

Who **that** knows him can imagine he is a singer now?

（彼を知っている誰が，彼が今歌手であると想像できるだろうか。）

(6) 先行詞が人で，関係詞節がその人の性格や状態，地位などを表す場合：先行詞は文の補語になっていることが多い。

He is not *the man* **that** he used to be.（彼はかつての彼とは違う。）

＝He is not what he used to be.（⇒ p.230）

ただし，(1) (2) の場合，「人」が先行詞のとき，関係代名詞は that ではなく，who になることが多い。

Emma is *the only student* **who** can solve the problem.

（エマはその問題を解くことができるただ 1 人の生徒です。）

All the people **who** attended the meeting were bored.

（会議に出席した人はみんな，退屈していた。）

質問箱 Q&A

Q 先行詞に付く a と the の使い分けを教えてください。

A 数えられる名詞は，後ろに修飾語句が付いて，それによって名詞の指すものが特定される場合，冠詞は通例 a ではなくて the が用いられます。

What is **the** name *of that mountain*?（あの山の名前は何ですか。）

しかし，関係詞節が続くからといって，必ず the になるわけではありません。次の 2 文を比べてみましょう。

(1) Rick is **a** student who is from Canada.

（リックはカナダ出身の学生です。）

(2) Rick is **the** student who is from Canada.

（リックがカナダ出身の学生です。）

不定冠詞の a が用いられている (1) は，「カナダ出身の学生がいる」ことを初めて述べる場合であるのに対して，定冠詞の the が付く (2) は，「カナダ出身の学生が（1 人）存在する」ことをすでに相手が知っていて，「リックがその学生です」と指定する際に用いられます。

この 2 文における a と the の使い分けは，次の (1)′と (2)′の違いに対応しています。

(1)′ **A** student is from Canada.（ある学生がカナダ出身です。）

(2)′ **The** student is from Canada.（その学生はカナダ出身です。）

このように，関係詞節で修飾されているからといって，自動的に先行詞に付く冠詞が the になるわけではないことに注意しましょう（⇒ p.448）。

Focus 117　前置詞の目的語になる関係代名詞

1. This is the CD (**which**) I told you **about**. 291
   （目的語／前置詞）
2. This is the CD **about which** I told you. 292
   （前置詞＋目的語）

   これが私が君に話した CD です。
3. This is the CD (**which**) I've been **looking *for***. 293
   （目的語／群動詞）

   これが私が探していた CD です。

前置詞が後ろに残る場合，前に出る場合

先行詞が前置詞の目的語の場合，関係代名詞は目的格を使う。前置詞が後ろに残る場合（→ 1）と前置詞を関係代名詞の前に置く場合（→ 2）がある。1 の場合が多く，2 の前置詞を前に置く形は文語的な表現。

1. 関係代名詞が前置詞の目的語になっており，前置詞が後ろに残っている。関係代名詞を省略することも，that を用いて表すことも可能である。

Focus 117 | 118

This is the CD. ＋ I told you **about it**.

→ This is the CD (**which** [**that**]) I told you **about** ☐.

2. 前置詞を関係代名詞の前に置く。

This is the CD. ＋ I told you **about it**.

→ This is the CD **about which** I told you ☐.

注意 前置詞を関係代名詞の前に置く場合，関係代名詞を省略することはできない。また，that は使えない。

× *This is the CD about I told you.*　× *This is the CD about that I told you.*

注意 先行詞が人の場合は次のようになる。

Do you know the girl (**who** [**whom**, **that**]) Tim is talking **to**?

Do you know the girl **to whom** [× *to who*, × *to that*] Tim is talking?

（ティムが話をしている女の子を知っていますか。）

Plus 前置詞を前に置く形は，文語的な表現。

This is the CD I told you **about**.
＝This is the CD **that** I told you **about**.
＝This is the CD **which** I told you **about**.
＝This is the CD **about which** I told you.



群動詞の前置詞

3. look for(～を探す)などの群動詞(⇒ p.402)はそのまとまりで意味を持つので，前置詞は切り離さず，後ろに残す。

This is the CD. I've been **looking for it**.
→ This is the CD (**which** [**that**]) I've been **looking for** ☐.
× *This is the CD for which I've been looking.*

英作文のコツ　前置詞に注意

問題　これがマイクが勤めている会社です。

解答　This is the company (which [that]) Mike works for.
This is the company for which Mike works.

解説　「これは会社です。」と「マイクはそこに勤めています。」の2文に分けて考えればよい。This is the company. に Mike works for it. を加えるが，関係代名詞は名詞の代わりにしかならないので，前置詞 for を忘れてはいけない。× *This is the company which Mike works.*

Focus 118　関係代名詞の what

1. **What** is needed is change.　必要とされるのは変化だ。　294
S

2. I didn't hear **what** she said.　295
O

私は彼女が言ったことが聞こえなかった。

3. That's **what** I want to know.　それが私の知りたいことだ。　296
C

「～すること[もの]」

関係代名詞の what は「～すること[もの]」を表す。**what は先行詞を含んでいる**ので，先行詞なしで使う。the thing(s) that [which] で書きかえることができる場合が多い。
＝**The thing that** [**which**] is needed is change.
what が導く節は名詞節で，文の中で，主語(→ 1)，目的語(→ 2)，補語(→ 3)になる。次のように，前置詞の目的語になることもある。

▶ Emily thanked him *for* **what** he had done.
(エミリーは彼がしたことにお礼を言った。)

what を用いた構文については ⇒ p.230 参照。

Focus 119　関係代名詞の限定用法と非限定用法

1. She has two sons who became actors. 297

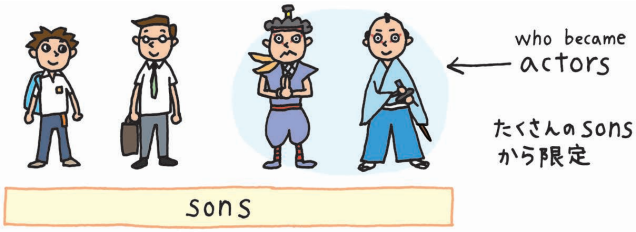
彼女には俳優になった息子が2人いる。

2. She has two sons, who became actors. 298

彼女には息子が2人いて，（2人とも）俳優になった。

限定用法

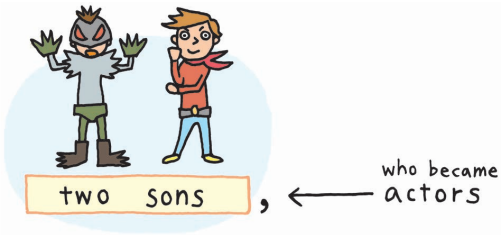
1. 先行詞である two sons を who became actors が修飾し，「（単なる）2人の息子」ではなく，「俳優になった2人の息子」と限定している。2人のほかに別の息子がいることもあり得る。この用法を関係代名詞の**限定用法**（**制限用法**）と呼ぶ。



Focus 119

非限定用法

2. 関係代名詞の who の直前にコンマが用いられている。このコンマによって，文の内容はいったん完結し，それに続く関係詞節は追加の説明を加えている。この用法を関係代名詞の**非限定用法**（**非制限用法**あるいは**継続用法**）と呼ぶ。コンマによって文が切れているので，彼女には2人しか息子がおらず，そのどちらもが俳優になったことを表している。



注意　which も非限定用法で使われるが，that には非限定用法はない。

We went to a restaurant **which** served delicious food.
（私たちはおいしい料理を出すレストランに行った。）

We went to Sailors Restaurant, **which** served delicious food.
（私たちはセイラーズ・レストランに行ったのだが，そこはおいしい料理を出した。）

注意 非限定用法の関係代名詞は，目的格でも省略できない。

Julia talked about my brother, **who(m)** she had met at the station.
（ジュリアは私の兄について話したのだが，彼女は彼に駅で会ったということだ。）
× *Julia talked about my brother, she had met at the station.*

Plus 非限定用法の関係詞節は，発話されるとき，コンマの前で短い休止を置く。

参考 実際の英文では，非限定用法でもコンマが置かれないこともあるが，コンマを付けるほうが正式。

Plus α

非限定用法の先行詞

先行詞が以下のように特定されるものの場合は非限定用法が用いられる。

(1) 固有名詞

Do you know Jim Hunt, **who** is our English teacher?
（ジム・ハントを知っていますか。その人は私たちの英語の先生なんです。）

(2)〈人称代名詞の所有格（my, your, his, her など）＋名詞〉

His mother, **who** works for a travel agency, can speak Chinese.
（彼のお母さんは旅行代理店に勤めていて，中国語が話せる。）

(3)〈this などの指示代名詞＋名詞〉

He recommended this book, **which** is written in easy English.
（彼はこの本を勧めました。その本は簡単な英語で書かれているんです。）

英作文のコツ

限定用法か？　非限定用法か？

問題 私はときどき，北海道で暮らすメグに電話をします。

解答 I sometimes call Meg, who lives in Hokkaido.

解説 先行詞が固有名詞の場合，普通，限定用法ではなく，非限定用法を用いる。Meg は固有名詞で，すでに限定されており，それ以上限定する必要がない。コンマを取ると限定用法になり，数人いるメグの中で「北海道で暮らすメグ」という意味になってしまう。別解のように関係代名詞を使わずに書いてもよい。

別解 I sometimes call Meg. She lives in Hokkaido.

Focus 120　句や節を受ける非限定用法の which

1. I tried to climb the mountain, **which** I found impossible. 299
   私はその山に登ろうとしたが，それは無理だとわかった。
2. He said he was a lawyer, **which** wasn't true. 300
   彼は弁護士だと言ったが，それは本当ではなかった。
3. She suddenly left the club, **which** surprised us. 301
   彼女が突然退部し，そのことは私たちを驚かせた。

前の文やその一部が先行詞になる

先行する句・節・文について追加の説明を加える場合，関係代名詞 which が使われる。

先行詞が句

1. which I found impossible（私は不可能だと思った）という関係詞節の意味から考えると，to climb the mountain（山に登ること）という不定詞句が先行詞。

先行詞が節

Focus 120 | 121

2. which wasn't true（本当ではなかった）の先行詞は，he was a lawyer（彼は弁護士だ）という節である。

先行詞が文

3. which surprised us（私たちを驚かせた）のは She suddenly left the club（彼女は突然退部した）なので，前の文全体が先行詞。

注意　直前の文全体が先行詞になる場合，who を用いることはできない。

My cousin married a singer, **which** [× *who*] I didn't know.
（いとこは歌手と結婚したが，私はそのことを知らなかった。）

My cousin married a singer, **who** I didn't know.
（いとこは歌手と結婚したが，私はその人を知らなかった。）

入試に Challenge　（　　）に入る適切なものを選びなさい。

There are few places downtown for parking, (　　) is really a problem.
① what　② where　③ which　④ who

訳　繁華街には駐車する場所がほとんどなく，そのことは本当に問題だ。

Point　（　　）の前にある文全体が problem の内容になっている。which は文全体を受けることができる。　解答 ③

The secret of genius is to carry the spirit of the child into old age, which means never losing your enthusiasm. – Aldous Huxley

関係副詞

関係副詞は，関係代名詞と同様に名詞（先行詞）を修飾する場合に使われるが，関係代名詞とは違って関係詞節の中で副詞の働きをする。

先行詞	場所を表す語	時を表す語	reason(s)	不要
関係副詞	where	when	why	how

Focus 121　関係副詞 where

1. The hotel **where** we stayed was wonderful. 302
   私たちが泊まったホテルはすばらしかった。
2. That's **where** the game will be held next year. 303
   そこが来年試合が開催されるところです。

先行詞は場所を表す語

関係副詞の where は**場所**を表す先行詞を修飾する。

1. 先行詞(The hotel)を関係詞節（where we stayed）が修飾をしている。関係副詞は関係詞節の中で副詞の役割を果たしている。

The hotel was wonderful.



どんなホテル？　We stayed **there** [＝at the hotel].
副詞

→ The hotel **where** we stayed ＿＿ was wonderful.
関係副詞

関係代名詞 which を使って〈前置詞＋which〉の形で書きかえることができる。その際，前置詞は関係詞節の中の動詞と先行詞の関係で決まる。stay at the hotel と言えるので，次のように書きかえられる（⇒Focus 117）。

＝The hotel **at which** we stayed was wonderful.
＝The hotel **(which)** we stayed **at** was wonderful.

先行詞の省略

関係副詞の where は先行詞が省略されて用いられることもある。先行詞に the place が使われるときは関係副詞 where のほうを省略することもできる。

2. where は the place where の意味を表している。

That's the place **where** the game will be held next year.
＝That's ＿＿ **where** the game will be held next year.
＝That's the place ＿＿ the game will be held next year.

Plus α

where の先行詞

where の先行詞は場所を表す語だけとは限らない。**point**(点), **case**(場合), **situation**(状況)など，状況や条件などを表す語が先行詞になることがある。

That's the point **where** [at which] you're wrong.
(それがあなたの間違っているところです。)

There are cases **where** [in which] you need your passport.
(パスポートが必要な場合がある。)

Have you ever experienced a situation **where** [in which] only English is used?
(英語のみが使用される状況を経験したことがありますか。)

質問箱 Q&A

Q 先行詞が場所を表す場合は where を使うと考えてもいいですか。

A いいえ，先行詞が場所を表す語だからといって関係副詞 where を使うとは限りません。次の 2 文の(　)に入る関係詞を考えてみましょう。

(1) That's the hotel (　　) we stayed. (あれが私たちが滞在したホテルだ。)
(2) That's the hotel (　　) we booked. (あれが私たちが予約したホテルだ。)

いずれも先行詞は the hotel で，違いは関係詞節の中の動詞だけです。
(1)の stay は**自動詞**で，stay **there** [＝at the hotel]のように後ろには副詞(句)がきます。ですので，副詞の働きをする **where** が入ります。
(2)の book(～を予約する)は**他動詞**で，book **it** [＝the hotel]のように目的語をとります。ですので，(代)名詞の働きをする目的格の関係代名詞 **which** か **that** が入ります。目的格なので省略することもできます。
このように，関係副詞と関係代名詞のどちらを使うかは，**関係詞が関係詞節の中でどのような役割をしているか(副詞の代わりをしているのか，代名詞の代わりをしているのか)**によって決まります。

Focus 121 | 122

Plus α

関係副詞の代用をする that

関係代名詞だけでなく，関係副詞 where, when, why, how の代わりとして that を用いることもある。ただし，この that は省略されることが多い。

Ann told me the place **where** she was staying.
＝Ann told me the place **(that)** she was staying.
(アンは私に彼女の居場所を教えた。)

Focus 122 関係副詞 when

1. I remember the day **when** I first met you. 304
   私は初めてあなたに出会った日を覚えている。
2. Now is **when** you should start it. 305
   今こそそれを始めるべきだ。

先行詞は時を表す語

関係副詞の when は**時**を表す先行詞を修飾する。

1. when 以下が先行詞の the day を修飾している。主節と関係詞節を分けて考えると，when は**時**を表す副詞句を置きかえたものであることがわかる。

I remember the day.



どんな日？ I first met you **then** [＝on the day].
副詞

→ I remember the day **when** I first met you.
関係副詞

when は関係代名詞 which を使って〈前置詞＋which〉の形で書きかえることができる。前置詞は関係詞節の動詞と先行詞の関係で決まる。この例の場合，met you on the day と言えるので，次のように書きかえられる。

＝I remember the day **on which** I first met you.

先行詞の省略

関係副詞の when は先行詞なしで用いられることがある。また，先行詞を残して，関係副詞 when を省略することもある。

2. when は the time when の意味を表している。

Now is the time **when** you should start it.
＝Now is ＿＿ **when** you should start it.
＝Now is the time ＿＿ you should start it.

Plus 先行詞に関係詞節を続けると主語が長くなってしまう場合，先行詞と関係詞が離れて使われることがある。この場合，関係詞を省略することはできない。

The time will come **when** your dream comes true.
（あなたの夢がかなう時がくるでしょう。）

Focus 123　関係副詞 why

1. Tell me (the reason) **why** you were late. 306
   あなたが遅れた理由を言いなさい。
2. I missed the train. **That's why** I was late. 307
   列車に乗り遅れました。それで遅刻しました。

先行詞は reason(s)

関係副詞の why は the reason(s)を先行詞とし，**理由**を表す節を導く。the reason(s)は省略されることもある。

1. the reason が先行詞で，why 以下がその内容を表している。

Tell me the reason.
何の理由？　You were late **for the reason**.
副詞句

Tell me the reason **why** you were late.
関係副詞

関係代名詞 which を使って〈前置詞(for)＋which〉の形で書きかえることができる。
＝Tell me the reason **for which** you were late.　［書き言葉］

Focus 123 | 125

先行詞の省略

That is the reason why ...（そういうわけで…）の意味で，That's why ... が用いられる。先行詞の the reason(s)を残して，why が省略されることもある。**This is why …**（こういうわけで…）という形も使われる。

▸**This is why** I like the singer.（こういうわけで私はその歌手が好きです。）

2. That's the reason **why** I was late.
＝That's ＿＿ **why** I was late.
＝That's the reason ＿＿ I was late.

Plus

This [That] is because … は，「これ[それ]は…だからです」という意味を表す。
This [That] is why … とは原因と結果が逆になることに注意。

I had the flu. **That's why** I was absent last week.
原因 → 結果
（私はインフルエンザにかかっていました。それで先週休んでいました。）

I was absent last week. **That's because** I had the flu.
結果 ← 原因
（先週，私は休んでいました。それはインフルエンザにかかっていたからです。）

I have failed many times, and that's why I am a success.
－Michael Jordan

Focus 124 関係副詞 how

That's how the accident happened. そのようにして事故は起こった。308

先行詞は伴わない

関係副詞の how は先行詞なしで用いられ，関係詞節全体で「～する方法[やり方]」という意味の**名詞節**になる。関係副詞の how は That's how ... (そのようにして…)という形で，事のなりゆきや方法を表すことが多い。また，**This is how ...**(このようにして…)という形でも用いられる。

▸ **This is how** he drew the picture.（このようにして彼はその絵を描きました。）

Plus how の代わりに the way，the way in which を使って同じ意味を表すことができる。
That's **how** the accident happened.
=That's **the way** the accident happened.
=That's **the way in which** the accident happened.

注意 関係副詞の how には the way の意味が含まれているので，the way how ... という形はない。× *That's the way how the accident happened.*

Focus 125 関係副詞の非限定用法

1. We stayed in Paris, **where** we met Tom. 309
   私たちはパリに滞在し，そこでトムに出会った。
2. In 2008, **when** I lived in Tokyo, I met Maria. 310
   2008 年に私は東京に住んでいたのだが，その時マリアに出会った。

関係副詞の非限定用法

関係副詞の where と when には**非限定用法**があり，先行詞に追加の説明を加える。why と how には非限定用法はない。

1. 非限定用法の関係副詞 where は，「…，**そしてその場所で～**」などの意味を表す。
   We stayed in Paris. ［追加説明］ We met Tom **there**.
   We stayed in Paris**, where** we met Tom [ ].
2. 非限定用法の関係副詞 when は「…，**そしてその時～**」などの意味を表す。この例では，関係副詞の節が In 2008, の直後に置かれている。
   In 2008, I met Maria. ［追加説明］ I lived in Tokyo **then**.
   In 2008**, when** I lived in Tokyo [ ], I met Maria.

注意 非限定用法の先行詞は，特定の場所や時である場合が多い。(⇒ p.217 Plus α)

俺は何度も失敗した。それが，俺の成功した理由さ。
ーマイケル・ジョーダン

Focus 126 複合関係代名詞：「～ならどんなものでも」

1. We want to help **whoever** needs help. 311
   助けを必要としている人であれば誰でも助けたい。
2. Choose **whichever** you like. 312
   どちらでも好きなほうを選んでください。
3. I'll give you **whatever** you want. 313
   あなたが欲しいものは何でもあげますよ。

名詞節を導く複合関係代名詞

関係代名詞に -ever が付くと，「**～ならどんなものでも**」という意味を表し，**名詞節**を導く。これらは**複合関係代名詞**と呼ばれる。先行詞を含むことに注意。

複合関係代名詞	意　味	主な書きかえ
whoever	～する人は誰でも	anyone who ～
whichever	～するものはどれ[どちら]でも	any one [ones] that ～ either (one) that ～
whatever	～するものは何でも	anything that ～

Focus 126 | 127

1. whoever は「～する人は誰でも」という意味を表す。例文では，whoever は関係詞節の中で主語の働きをしている。動詞は単数形(needs)で受ける。
   ＝We want to help **anyone who** needs help.
   目的格の場合は，whomever(～する人に[を]誰でも)という表現もあるが，口語では whoever を用いるのが一般的である。
   ▸ I will invite **whomever [whoever]** you like.
   (あなたが望む人は誰でも招待するつもりです。)
2. whichever は「～するものはどれ[どちら]でも」という意味を表す。
   ＝Choose **any one (that)** you like.
3. whatever は「～するものは何でも」という意味を表す。
   ＝I'll give you **anything (that)** you want.

Plus whichever は選択肢が前提にあり，「その中からどれでも」という意味を表す。
whatever は「漠然とした中から何でも」というニュアンスになる(⇒ p.226 **質問箱**)。

Plus whichever と whatever は直後に名詞を伴って形容詞的に用いられることがある。この用法を**複合関係形容詞**と呼ぶ。
Choose **whichever color** you like.（どちらでも好きな色を選んでください。）
Do **whatever jobs** you like.（何でもあなたが望む仕事をしなさい。）

Focus 127 複合関係代名詞：「～しようとも」

1. You're welcome, **whoever** you are. 314
   あなたが誰であっても歓迎します。
2. **Whichever** you choose, you'll be satisfied. 315
   どれを選んだとしても，満足していただけるでしょう。
3. He is always calm, **whatever** happens. 316
   何が起ころうとも，彼はいつも冷静だ。

副詞節を導く複合関係代名詞

複合関係代名詞が**副詞節**を導き，「**～しようとも**」という**譲歩**の意味を表す用法もある。複合関係代名詞の譲歩の用法は〈no matter ＋疑問詞〉で言いかえることができ，こちらのほうが口語的な表現である。

複合関係代名詞	意　味	主な書きかえ
whoever	誰が[誰を]～しようとも	no matter who ～
whichever	どれ[どちら]が[を]～しようとも	no matter which ～
whatever	何が[何を]～しようとも	no matter what ～

1. whoever は「誰が[誰を]～しようとも」という意味を表す。
   ＝You're welcome, **no matter who** you are.
   目的格の場合は whomever という表現もあるが，口語では whoever を用いるのが一般的である。

Plus 動詞の前に may が使われることがあるが，文語的である。
Whoever may come, they will be pleased.
（誰が来ようとも，彼らは喜ぶでしょう。）

2. whichever は「どれ[どちら]が[を]～しようとも」という意味を表す。
   ＝**No matter which** you choose, you'll be satisfied.

3. whatever は「何が[何を]～しようとも」という意味を表す。
   ＝He is always calm, **no matter what** happens.

Plus 副詞節を導く whichever, whatever は直後に名詞を伴って形容詞的に用いられることがある。〈no matter＋疑問詞〉の形も可能。
Whichever [No matter which] route he takes, it takes two hours.
（彼がどの道を選んだとしても，２時間かかる。）
Whatever [No matter what] problems you have, you can count on me.
（どんな問題が起きても，私を頼ってください。）

質問箱 Q&A

Q 複合関係代名詞が「～ならどんなものでも」の意味で使われているのか「～しようとも」の意味で使われているのかの見分け方を教えて下さい。

A 「～ならどんなものでも」の意味なら名詞節，「～しようとも」なら副詞節になります。名詞節は文の主語や目的語などになるため，欠かすことができない要素ですが，副詞節はなくても文が成り立ちます。その節がなくても文が成り立つかどうかを確認すればよいでしょう。

○ We want to help **whoever** needs help.
× *We want to help.*
→ whoever は名詞節で「～する人は誰でも」の意味になります。
○ **Whichever** you choose, you'll be satisfied.
○ You'll be satisfied.
→ whichever は副詞節で「どれを～しようとも」の意味になります。

Focus 127 | 129

Focus 128 複合関係副詞：「～する時はいつでも」など

1. I see Lisa **whenever** I go to Tokyo. 317
東京に行く時はいつでも私はリサと会う。
2. Please take a seat **wherever** you like. 318
どこでもあなたの好きなところに座ってください。

複合関係副詞

複合関係副詞の whenever は「～する時はいつでも」，wherever は「～するところはどこへ[で]でも」という意味を表す**副詞節**を導き，接続詞のように使われる。

複合関係副詞	意　味	主な書きかえ
whenever	～する時はいつでも	any time ～
wherever	～するところはどこへ[で]でも	(at) any place ～

1. whenever は「私が東京に行く時はいつでも」という副詞節を導く。
＝I see Lisa **any time** I go to Tokyo.
2. wherever は「あなたが好きなところはどこでも」という副詞節を導く。
＝Please take a seat **(at) any place** you like.

Wherever you go, no matter what the weather, always bring your own sunshine.
－Anthony D'Angelo

Focus 129 複合関係副詞：「いつ～しようとも」など

1. **Whenever** I visit her, her room is clean. 319
   いつ彼女を訪ねても，彼女の部屋はきれいだ。
2. **Wherever** he goes, he always has two bodyguards. 320
   どこへ行こうとも，いつも彼はボディーガードを 2 人連れている。
3. He never gives up, **however difficult** the situation is. 321
   どんなに状況が困難でも，彼は決してあきらめない。

譲歩を表す複合関係副詞

whenever, wherever, however の複合関係副詞は，それぞれ「いつ～しようとも」，「どこへ[で]～しようとも」，「どんなに～でも」という**譲歩**の意味を表す**副詞節**を導き，接続詞のように使われる。

複合関係副詞	意　味	主な書きかえ
whenever	いつ～しようとも	no matter when ～
wherever	どこへ[で]～しようとも	no matter where ～
however **＋形容詞[副詞]**	どんなに～でも	no matter how＋ 形容詞[副詞] ～

1. whenever の節は「いつ私が彼女を訪ねようとも」という譲歩の意味を表す。
   ＝**No matter when** I visit her, her room is clean.
2. wherever の節は「彼がどこへ行こうとも」という譲歩の意味を表す。
   ＝**No matter where** he goes, he always has two bodyguards.
3. however は〈**however＋形容詞[副詞]**〉の形で，「どんなに～でも」という譲歩の意味を表す。
   ＝He never gives up, **no matter how difficult** the situation is.
   ▸ **However hard** you push the door, it won't open. ［however＋副詞］
   （そのドアをどんなに強く押しても，開かないだろう。）
   × *However you push the door hard, ...*

Plus 形容詞や副詞が付かない〈however＋S＋V〉の形は「どんなふうに～しても」という意味を表す。
However you explain it, he won't listen.
（どんなふうに説明しても，彼は聞く耳を持たないだろう。）

どこへ行こうとも，天気がどうあろうとも，いつも自分の太陽と共にあろう。
－アンソニー・ダンジェロ

Focus 130　関係詞の注意すべき用法

1. He is a good actor **who I think** will win an Academy Award someday. 322
   彼は，私がいつかアカデミー賞をとると思う，すばらしい役者だ。
2. Is there anyone **(that)** you know **who** can play the drums? 323
   あなたが知っている人の中で，ドラムが演奏できる人はいますか。
3. He was robbed of **what** *money* he had. 324
   彼は持っていたお金をすべて奪われた。
4. The book, **the cover of which** is torn, is valuable. 325
   その本は表紙が破れているが，貴重なものだ。

〈関係代名詞＋I think ...〉

1. 関係代名詞の直後に I think, I believe, I know, I hear, I suppose などが続く場合がある。

   He is a good actor.　　I think he will win an Academy Award someday.

Focus 130

→ He is a good actor **who** I think ☐ will win an Academy Award someday.

I think などをいったん（　）に入れて考えるとわかりやすい。

▶ Do **what** (you believe) is right.
（あなたが正しいと信じることをしなさい。）

二重限定

2. 2つの関係詞節が1つの先行詞を修飾することを**二重限定**という。「**〜の中で〜する…**」というように，大きく限定してから細かく限定する。1つめの関係代名詞は省略することができるが，2つめの関係代名詞は省略できない。

   Is there anyone **(that)** you know **who** can play the drums?



関係形容詞

3. what の後に名詞が続いて，「**…するだけの〜**」「**…するすべての〜**」を意味することがある。名詞を修飾して形容詞の働きをしているので，**関係形容詞**と呼ばれる。all the 〜 that ... で書きかえることができる。
   ＝He was robbed of **all the** money **(that)** he had.

参考 few や little が入ると，「**わずかではあるが**」の意味が加わる。
He was robbed of **what** little *money* he had.
（彼は持っていたなけなしのお金をすべて奪われた。）

参考 which も関係形容詞として働く。〈**前置詞＋which＋名詞**〉の形をとることが多い。
It may rain tomorrow, **in which case** the hike will be canceled.
（明日は雨かもしれませんが，その場合，ハイキングは中止です。）

～ of whom [which] の非限定用法

4. ～ of whom [which] が非限定用法で使われることがある。

The book, **the cover of which** is torn, is valuable.

all, most, some, many, both, neither など数量を表す語と共に用いられることが多い。その場合は「**そのうちの～は…だ**」という意味を表す。

▸ I know some foreigners, **all of whom** can speak English.
（私は何人か外国人を知っているが，みんな英語を話すことができる。）

入試に Challenge

（　　）に入る適切なものを選びなさい。

(1) Many people criticized me, but I did what (　　).
① I thought I was right　② I thought it was right
③ I thought was right　④ I was thought right

(2) Susan used all her savings to pay for a demo tape, copies of (　　) she later sent to several music companies.
① that　② what　③ which　④ whose

訳 (1) 多くの人が私を批判したが，私は正しいと思ったことをした。 (2) スーザンはデモテープ制作の支払いに預金を全部使い，その後，デモテープのコピーをいくつかの音楽会社に送った。

Point (1) I thought をいったん省いて考えるとわかりやすい。I thought は関係代名詞の直後に置かれる。 (2) ～ of which の非限定用法。of の後には a demo tape の代わりをするものが入る。that は非限定用法では使えない。

解答 (1) ③ (2) ③

関係詞を使った構文

1 what is called いわゆる

This is **what is called** "globalization." 326
これがいわゆる「グローバル化」だ。

what we [you, they] call という形でも用いられる。
▸ That is **what we call** "jet lag."
（それがいわゆる「時差ボケ」だ。）

2 what S used to be 以前[かつて]の S(の状態)

He is not **what** he **used to be**. 彼は以前の彼とは違う。 327

what S was で「昔の S」，**what S is** で「今の S」という意味を表す。
▸ The price is double **what it was** 10 years ago.
（価格は 10 年前の 2 倍だ。）
▸ This movie director made the actress **what she is** now.
（この映画監督がその女優を今の彼女にした。）

3 what with A and B A や B の理由で

What with lack of exercise **and** overeating, my father is overweight. 328
運動不足や食べ過ぎなどで，父は太り過ぎている。

what with all A and B, what with A and all などの形もある。

4 A is to B what C is to D A と B の関係は C と D の関係と同じだ

Friendship **is to** the soul **what** food **is to** the body. 329
友情と心の関係は，食べ物と体の関係と同じだ。

A is what C is to D to B の what C is to D を後ろに回したもの。

5 such ～ as ... …するような～

Read **such** books **as** will make you happy. 330

あなたを幸せにするような本を読みなさい。

such ～ as ... の中で使われている as は主格の関係代名詞として働く。

Read such books. They will make you happy.

→ Read **such** books **as** will make you happy.

6 the same ～ as ... …するのと同じ～

Oh, no. She's wearing **the same** sweater **as** I am. 331

なんてこと。彼女は私が着ているのと同じセーターを着ている。

the same ～ as ... の形で使われている as は，目的格の関係代名詞として働く。

She's wearing **the same** sweater **as** I am (wearing).

7 as is often the case with ～ ～にはよくあることだが

As is often the case with her, she was silent in the meeting. 332

彼女にはよくあることだが，打ち合わせで何もしゃべらなかった。

as は関係詞の非限定用法のように文全体を先行詞とし，「～するように」という意味を表すことができる。この場合，as の節は主節の前に置くことができる。

As is often the case with her, she was silent in the meeting.

as is usual with ～(～にはいつものことだが)という表現もある。

▸ **As is usual with** Tom, he made a joke.

(いつものことだが，トムは冗談を言った。)

8 more ～ than ... …する以上の～

Don't carry **more** money **than** you need. 333

あなたが必要としている以上のお金を持ち歩いてはいけません。

than は関係代名詞と同じように関係詞節の主語や目的語の働きをすることができる。この例の than は you need の目的語の働きをしている。

Plus **more ～ than S can ...** は，文字通りには「S が…できる以上の～」を表すが，「S が…できないほどの～」という否定の意味を含んで訳すと自然な日本語になる。

There is **more** food **than** we can eat.（食べ切れないほどの食べ物がある。）

× *we can't eat.*

9 no ～ but … …ない～はない

There is **no** rule **but** has exceptions. 例外のない規則はない。 334

but は no や few などの否定を伴った先行詞の後に付いて，二重否定(…ない～はない)を表す関係代名詞として用いられることがある。ただし，口語ではあまり用いられない。この例では，but は関係詞節の動詞 has の主語の働きをしている。

＝There is **no** rule **that** **doesn't** have any exceptions.

入試に Challenge

下の語句を並べかえて文を完成させ，A，B に入れるものの番号を答えなさい。

(1) He has a very large vocabulary. He is (　　) (A) (　　) (B) (　　).
① a ② called ③ is ④ "walking dictionary" ⑤ what

(2) Learning a foreign language (　　) (A) (　　) (B) (　　).
① be expected ② might ③ more patience ④ takes ⑤ than

訳 (1) 彼は語彙が豊富だ。彼はいわゆる「歩く辞書」だ。 (2) 外国語を学ぶことは予想以上の忍耐がいる。

Point (1) what is called「いわゆる」(what is called a "walking dictionary") (2) than が主格の関係代名詞の働きをしている。(takes more patience than might be expected)

解答 (1) A ③ B ① (2) A ③ B ②

句と節のまとめ

1. 句と節

2語以上の語が続いて，〈**主語＋動詞**〉**を含まない語のまとまり**を**句**，〈**主語＋動詞**〉**が含まれる語のまとまり**を**節**という。
句や節には，文の中で「名詞」の働きをするもの，「形容詞」の働きをするもの，「副詞」の働きをするものがある。その働きによって，句は「名詞句」「形容詞句」「副詞句」，節は「名詞節」「形容詞節」「副詞節」に分けられる。

句　(1) Tom knows **what to do**.
　　名詞句　「主語＋動詞」を含まない

節　(2) Tom knows **what he should do**.
　　主語　動詞
　　名詞節　「主語＋動詞」を含む

上の例はどちらも「トムは何をすべきかわかっている。」という意味の文だが，(1)は what to do という名詞句を，(2)は what he should do という名詞節を使って表現している。

2. 句の種類と働き

① 名詞句

名詞句は，文の中で**主語・補語・目的語・前置詞の目的語**になる。

(1) **Reading good books** can make your life richer.　［動名詞句が主語］
　　S　V　O　C
（よい本を読むことで人生をより豊かにできる。）

(2) My dream is **to be a graphic designer**.　［不定詞句が補語］
　　S　V　C
（私の夢はグラフィック・デザイナーになることだ。）

(3) He told me **how to solve the problem**.　［〈疑問詞＋to 不定詞〉が目的語］
　　S　V　O　O
（彼はその問題の解き方を私に教えてくれた。）

(4) He went out of the room without **saying goodbye**.　［動名詞句が前置詞の目的語］
　　前置詞　前置詞の目的語
（彼はさよならを言わないで部屋を出て行った。）

注意　「名詞句」「形容詞句」「副詞句」は文中の働きの上での分類であり，「不定詞句」や「動名詞句」などは形の上での分類である。

② 形容詞句

形容詞句は，名詞・代名詞を後ろから修飾したり，補語になったりする。

(1) The flowers **in the vase** were very beautiful. ［前置詞句］



（花びんの中の花はとても美しかった。）

(2) I don't have time **to go to the library**. ［不定詞句］



（図書館へ行く時間がない。）

(3) The man **talking with the long-haired girl** is our teacher. ［分詞句］



（髪の長い女の子と話をしている男の人は私たちの先生です。）

(4) I received a letter **written in English**. ［分詞句］



（私は英語で書かれた手紙を受け取った。）

(5) Mario is **from Italy**. ［前置詞句が補語］

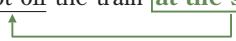
S ＝ C

（マリオはイタリア出身です。）

③ 副詞句

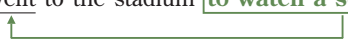
副詞句は，動詞や形容詞，その他の副詞，文全体を修飾する。

(1) I got off the train **at the station**. ［前置詞句］



（私はその駅で電車を降りた。）

(2) I went to the stadium **to watch a soccer game**. ［不定詞句］



（私はサッカーの試合を見に競技場へ行った。）

(3) I'm glad **to see you**. ［不定詞句］



（あなたに会えてうれしいです。）

(4) It's snowing too hard **to go out**. ［不定詞句］



（外出するには，雪が激しく降り過ぎている。）

(5) I was waiting for her, **reading a magazine**. ［分詞句（分詞構文）］



（私は雑誌を読みながら，彼女を待っていた。）

(6) **Generally speaking**, Japanese men are shy. ［分詞句（分詞構文）］



（一般的に言って，日本人の男性は内気だ。）

3. 節の種類と働き

① 名詞節

名詞節は，文の中で主語・補語・目的語・前置詞の目的語になる。同格の用法もある。

(1) **Whether you believe it or not** isn't important. ［whether 節が主語］
S′ V′
S V C
（あなたがそれを信じるか信じないかは重要ではありません。）

(2) The trouble is **that he wastes a lot of money**. ［that 節が補語］
S′ V′
S V C
（困ったことに，彼は無駄遣いが非常に多い。）

(3) I don't know **who that guest is**. ［疑問詞節が目的語］
S′ V′
S V O
（あの客が誰なのか私は知りません。）

(4) She cooked lunch with **what was in the fridge**. ［関係詞節が前置詞の目的語］
前置詞
S′ V′
前置詞の目的語
（彼女は冷蔵庫にあるもので昼食を作った。）

(5) He had to face the fact **that he would never walk again**.
S′ V′
同格 ［that 節が the fact と同格］
（彼は二度と歩けないという事実と向き合わなければならなかった。）

② 形容詞節

形容詞節は形容詞の働きをする。関係代名詞や関係副詞が使われ，名詞・代名詞を後ろから修飾する。

(1) This is the book **(that) I bought yesterday**. ［関係詞節（関係代名詞）］
S′ V′
（これが昨日私が買った本です。）

(2) I'll never forget the day **(when) I first met her**. ［関係詞節（関係副詞）］
S′ V′
（私は彼女に初めて会った日を決して忘れないだろう。）

③ 副詞節

副詞節は副詞の働きをし，他の節(の動詞)を修飾する。when, if, because などの接続詞や複合関係詞が使われる。

(1) **When I was a child**, I would often go fishing. ［接続詞 when が時を表す］
S′ V′

(子どものころ，私はよく魚釣りに行ったものだ。)

(2) **If it is fine tomorrow**, we will go on a picnic. ［接続詞 if が条件を表す］
S′ V′

(もし明日晴れたら，私たちはピクニックに行くつもりだ。)

(3) I sat down **because I was so tired from walking**. ［接続詞 because が理由を表す］
S′ V′

(歩くのに疲れたので，私は腰を下ろした。)

(4) **Whoever may come**, you mustn't open the door. ［関係詞節が譲歩を表す］
S′ V′

(誰が来ようとも，ドアを開けてはいけません。)

4. 主節と従属節［従位節］

節には主節と従属節という区分けがある。**主節**は「文の S＋V」が含まれる節，**従属節［従位節］**は，主節に従属している節で，「S′＋V′」が含まれる。名詞節・形容詞節・副詞節の見分けが必要なのは従属節のほうである。

(1) 主節　　従属節(名詞節)

I think | that he is right. (私は彼が正しいと思う。)
S′ V′

S V O

(2) 主節　　従属節(形容詞節)

Do you know anyone | who can speak Chinese?
S′ V′

S V O

(中国語を話せる人を知っていますか。)

(3) 従属節(副詞節)　　主節

Although it was raining, | we went to the stadium.
S′ V′

M　　S V M

(雨は降っていたけれど，私たちは球場に出かけた。)

参考 2つの節が対等な関係で結び付いているとき，それぞれの節を**等位節**という(⇒ p.346)。